

防衛大学校 少林寺拳法部



創立30周年

1994年
部誌・OB会報
第21号

目 次

部

誌

- 1 部長挨拶 教授（応用化学） 菅 野 等
- 2 学生寄稿
39期 主将 中村公多郎
39期 副将 大松 清生
40期 主将 上野 洋介
40期 副将 守井 孝志
41期 中江 宏彰
41期 小林 貴
42期 土本 邦義
42期 古賀 信之
- 3 平成6年度 活動成果報告
- 4 部長・顧問・40期幹部名簿
- 5 部員名簿
- 6 平成7年度年間計画

奥平会報

- 1 巻頭言 奥平会会長 上杉和壽
- 2 平成6年度奥平会活動概要
 - (1) 現役部員に対する支援
 - (2) 30周年記念行事（総会）の実施
 - (3) 平成6年度会計報告
 - (4) 連絡事項
 - (5) 奥平会名簿

あ い さ つ

部長 菅野 等

合掌

OB諸兄におかれましては、良いお年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年はお陰さまで、創立者の奥平様、前部長の丸川防衛大学名誉教授、田村・神田両師範などをお招きして、多数のOB及び部の関係者とともに、防衛大学少林寺拳法部の創部30周年をお祝いすることができましたことは、大変嬉しく感慨深いものでありました。これからも、先輩が築いてくれた輝かしい伝統を継承し、さらに発展するように努力したいと思っております。

さらに嬉しいことに、昨年は中村君を主将とする部員全員のたゆまない努力が実を結び、全日本や関東学生大会においても、ここ数年来なかった好成績を収めることができました。日頃の田村・神田両師範、佐伯監督の良い指導と防衛大学在勤のOB諸兄の支援や指導も大きな力になりました。

ただ、最近少林寺拳法部に入部する一年生が減少気味で、ここ数年部員数が減ってきております。最近の若者気質の変化などいろいろな要因が考えられます。しかし、基本的には新入生にとって少林寺拳法部が魅力的であり、入部してみようと言う気持ちにさせるように積極的に働きかけることが重要に思われますので、部員の増加に向けて努力するつもりです。 本年も皆様の暖かいご支援とご指導をお願い申し上げます。

結手

「政権を振り返り」

39期 主将 中村 公多朗

合 掌

我々39期が40期に政権をゆずり、早2か月が過ぎました。政権担当時は後輩指導の難しさ、部運営の忙しさを痛感し、大きな荷を背負ったように感じましたが、39期生一丸となり努力した結果が、先の関東大会・全日本大会に現れていると思います。

40期生以下の少林寺拳法部員は「強くなりたい」「うまくなりたい」という気持ちを忘れずに日々精進して下さい。それが誇りとなり、自信へと結びつくと思います。

最後に、師範、部長をはじめ監督、顧問の方々に感謝するとともに、これからも益々の御支援、御指導を賜りますよう宜しくお願いいたします。

結 手

「新政権を迎えて」

40期 主将 上野 洋介

合 掌

40期が少林寺拳法部に入部し、早3年の月日がたちました。この間、師範を始め諸先輩方の暖かい御指導の下日々練習に励んで参りました。その甲斐あって、先頃行われた全日本学生大会においては最優秀賞となり、7連覇を達成することができました。

政権が40期に移り、私が主将を勤めることとなり、諸先輩方の築いてこられた伝統に恥ずることのないよう現在努力しているところであります。私が部員に望むことは、「強くなりたい、上手になりたい」という気持ちを持ち続けて欲しいと言うことです。そのために、自らが抱いた気持ち、立てた目標に部員一人一人が積極的に取り組んでいけるクラブを私は作りたいと思っています。

今後は、部員一同、より一層磨きをかけ、真摯に努力し、また、少林寺拳法部を受け継いでいく後輩を育てることに全力をあげていく所存であります。

最後になりましたが、これからも変わらぬ御支援・御指導の程宜しくお願いいたします。

結 手

「政権を終えて」

39期 副将 大松 清生

合 掌

月日の経つのは早いもので、卒業まで僅かとなった今、4年間を振り返ってみると防大生活の全てが少林寺拳法部での活動であったように思われます。

本年度は、我々39期の目標として、防大少林寺拳法部の再建を挙げてきたわけですが、本年度の結果を見る限り十分な足がかりを築けたと思います。

後輩に対しては、団体演武8連覇はもちろんの事、是非とも全日本学生大会中拳士の部において最優秀を取ってもらいたいと思います。

最後になりますが、お世話になった師範、監督、顧問の皆様ありがとうございました。そして、同期のみんな、いつまでも良い友でいよう。

結 手

「新政権を迎えて」

40期 副将 守井 孝志

合 掌

40期は人数も少なく先輩の方々から非常に心配されました。それが、関東・全日本の各学生大会団体演武の部において、最優秀を取ることができました。これも、諸先輩の方々のご指導のおかげと感謝するとともに、今になって、やっと一人では何もできないということに気がきました。

さて、今後は、40期が部を背負って行くわけですが、私はこれから、部全体に貢献するとともに、自分に対しても更に厳しくして行くつもりです。それは、副将という役職に責任を感じ、自分から甘えを取り除き、精進することが、部の貢献につながると信じているからです。

軟弱な先輩をもつ後輩は非常にかわいそうだと思います。私は、諸先輩の築いた伝統に恥ずる事のないよう、自分に対しても後輩に対してもそして同期に対しても接していきたいと考えております。

結 手

「2学年を終えるに当たって」

41期 中江 宏彰

合 掌

私が、防大の少林寺拳法部に入部して、早くも2年が過ぎようとしております。クラブが始まる前の憂鬱感、終わった後の充実感、何とも言えません。今ではこの少林寺拳法部が私の生活の一部であると言っても過言ではありません。

昨年5月に行われた関東学生大会の組演武段外の部におきまして、まさかの最優秀となり、みんなを驚かせましたが、なんとと言っても一番驚いたのは私自身でした。

これによって調子づいた私は、10月に行われた全日本学生大会では准拳士の部に出場し、優良賞(2位)となりました。ここで初めて挫折感・屈辱感を味わい、改めて全日本の厚い壁を目の当たりにしました。この機を境に、現在は初心に戻り再度基本の確認を行っております。

勝つことだけがすべてではありませんが、やはり負けることは悔しいことです。私は、この悔しさをバネに、団体演武で全日本学生大会8連覇を達成しようと思っております。最後に、我々41期を親身に指導して下さった38期・39期の先輩方へ厚くお礼申し上げます。

「少林寺拳法 昨年・今年・来年」

41期 小林 貴

合 掌

全日本学生大会も終え、39期から40期への政権交代も終わり、私の校友会生活も半分となってしまいました。思えば、ただがむしゃらに食らいついてきただけであったように思います。もちろんこれからも少林寺拳法部の厳しさや楽しさは変わらぬものと思います。

昨年: 1学年として入部して、必死になって厳しい練習について行くだけだった頃は、修養の時。炎天下の夏合宿、この世の果てが見えたような春合宿、懐かしい記憶と呼ぶにはまだ早すぎますが、自らの手で創造しようとする自負心ができました。

今年: 2学年になってすぐに関東学生大会に向けての演武組に選ばれた時のプレッシャーを受けた気持ちは、今もよく覚えています。「絶対優勝するぞ。」と励ましてくれた主将、2年係の指導の下で、非常に効果的な練習をさせていただきました。また、その後念願の黒帯を手にし、39期の先輩方の指導の下で全日本学生大会も終え、政権交代を目の当たりにした時、上級生になる事への意味がちらりと見えたような気がします。

来年: これまで培ってきた体力・気力・技量に更に向上させ、やらなければならない大仕事があります。それは、団体演武での8連覇です。今後は、40期の先輩を信じて、この目標に向け努力していく所存でありますので、来年度の部誌を楽しみにして下さい。

結 手

「1学年を終えるに当たって」

42期 土本 邦義

合 掌

私が少林寺拳法部に入部して、早くも1年が過ぎようとしています。思いおこすと、入校した当初は、少林寺拳法部に入部するとは全く考えていませんでした。それは、練習が非常に大変であると聞いていたからです。ところが、練習の見学に行ったとき、突き・蹴り・投げ・間接技有りともまるで空手と合気道をたして割ったような理想的な武道であることがわかり、一瞬で魅せられてしまったのです。また、防大が誇る日本一の校友会ということも知り、先に述べたように、大変だとは聞いていたが、自分を精神的にも身体的にも鍛える良い機会ではないかと思い入部を決意しました。

高校時代は運動というものをしていなかったので体力が無く、ついていけるのだろうか悩んだ時期もありましたが、その都度、同期や先輩方に励まされ何とか1年間やってこれました。それだけではなく、先に行われた全日本学生大会において、先輩のご指導のおかげで、級拳士の部に出場し、銅メダルをいただくことができました。練習においては辛いこともありましたが、一気にそんなことは吹き飛ばしてしまいました。

入部して、心身ともに多少なりとも変化しているのではないかと自分でも感じているところではありますが、今後、2年、3年、4年と42期10名全員で、日々精進を重ね努力していく所存でありますので、今後ともご指導宜しく願いいたします。

結 手

「1学年を終えるに当たって」

42期 古賀 信之

合 掌

私は、強くなりたいと思っていたこともあり、防大に入校する時から格闘技をやりたいと思っていました。はじめはボクシングを考えていたのですが、少林寺拳法部は日本一になれると聞き、入部を決意しました。

入部当初の頃は、体力的についていけず大変つらい毎日でした。本当にこのクラブでやっていけるのだろうかと思ったこともありましたが、夏合宿を何とか乗り越えることができた時、自分に自信を持つことができ、今では毎日の練習を楽しく、また一生懸命やっています。

私は、先に行われた全日本学生大会に級拳士の部で出場させていただいたのですが、秋季定期訓練があり、思うように練習ができず不安でありましたが、何とか3位に入賞することができました。この時、上級生を信じてついていけば、絶対に強くまた上手になれるのだと確信しました。

私たち42期は、10名と非常に少数なので、特に同期の絆を大切に、互いに助け合い、励まし合い、共に強くなるよう一日一日を大切にして努力して行きたいと思っております。

結 手

平成6年度成果報告

関東学生大会		(平成6年5月4日；日本武道館)					
男子段外の部	最優秀賞	3	2	3	(2)	江田松保	彰彰生
少拳士の部	最優秀賞	1	1	1	(2)	中黒大久	宏彰清敦
男子二人掛の部	最優秀賞	3	4	2	(4)	野達田良本	洋文善一
団体演武の部	最優秀賞	2	2	2	(4)	上阿高奈熊岩	明行志
		4	4	1	(4)	野達田良本	洋文善一
		1	1	3	(3)	上阿高奈熊岩	明行志
		1	1	2	(2)	上阿高奈熊岩	明行志
		1	4	2	(3)	上阿高奈熊岩	明行志
		2	3	3	(3)	上阿高奈熊岩	明行志
		3	1	2	(3)	上阿高奈熊岩	明行志
		3	3	2	(2)	上阿高奈熊岩	明行志

全日本学生大会		(平成6年10月23日；日本武道館)					
男子段外の部	優良賞	1	4	2	(1)	土本原保	邦義彰典
准拳士の部	最優秀賞	3	2	3	(2)	中杉久	宏正敦
男子二人掛の部	最優秀賞	3	1	2	(4)	野達田良本	洋文善一
団体演武の部	最優秀賞	2	2	2	(4)	上阿高奈熊岩	明行志
		4	4	1	(4)	上阿高奈熊岩	明行志
		1	1	3	(3)	上阿高奈熊岩	明行志
		1	1	2	(2)	上阿高奈熊岩	明行志
		1	4	2	(3)	上阿高奈熊岩	明行志
		2	3	3	(3)	上阿高奈熊岩	明行志
		3	1	2	(3)	上阿高奈熊岩	明行志
		3	3	2	(2)	上阿高奈熊岩	明行志

横須賀市民大会		(平成6年1月6日；防衛大学校)					
段外の部	優勝	2	2	2	(1)	永藤水松	透仁志
准拳士の部	優勝	3	2	2	(2)	野達田良本	仁優清
中拳士の部	優勝	4	2	1	(2)	野達田良本	仁優清
単独演武の部	優勝	3	4	2	(4)	上阿高奈熊岩	洋文善一
団体演武の部	優勝	4	4	3	(4)	上阿高奈熊岩	洋文善一
		1	1	3	(3)	上阿高奈熊岩	洋文善一
		1	1	2	(2)	上阿高奈熊岩	洋文善一
		1	4	2	(3)	上阿高奈熊岩	洋文善一
		2	3	3	(3)	上阿高奈熊岩	洋文善一
		3	1	2	(3)	上阿高奈熊岩	洋文善一
		3	3	2	(2)	上阿高奈熊岩	洋文善一

全自衛隊大会		(平成6年12月14日；自衛隊体育学校)					
段外の部	準優勝	2	2	1	(1)	藤本原	祐介
初・式段の部	優勝	3	1	2	(4)	藤本原	正典

浦賀警察署武道始式		(平成7年1月12日；浦賀警察署)					
演武披露	組演武	3	1	2	(4)	美原保	正典
	二人掛	2	2	2	(4)	美原保	正典
		4	4	1	(4)	美原保	正典

平成6年度防衛大少林寺拳法部

1 部長・顧問

部長	菅野 等 (教授)		
師範	田村 倉蔵		
	神田 憲和		
	頼富 英武		
監督	尾崎 信朗 (25F)	顧問	阿部 博文 (31F)
顧問	紫村 敬二 (18A)		迫田 浩文 (31N)
	佐伯 義次 (25A)		高橋 秀雄 (32F)
	福島 睦 (26F)		松永 康則 (34A)
	五領 隆男 (27N)		田中 一要 (34A)
	中村 大助 (30A)		竹内 博忠 (34A)
			大西 純児 (35A)

2 第40期

主将	121 (3)	上野 洋介	主務	233 (3)	奈良 一志
副将	312 (3)	守井 孝志		233 (3)	永友 恒知
統制長	142 (3)	山田 賢治	会計	231 (3)	高田 善行
道場長	313 (3)	熊本 巖	師範係	231 (3)	高田 善行
3年係	413 (3)	岩本 正臣	涉外	142 (3)	山田 賢治
2年係	122 (3)	川崎 英輔	本山係	233 (3)	奈良 一志
1年係	113 (3)	小坂 淳		233 (3)	永友 恒知
訓練係	332 (3)	綿貫 俊一	OB係	413 (3)	岩本 正臣
安全係	131 (3)	阿達 文明		131 (3)	阿達 文明

部 員

39期

小隊	専攻	要員	氏 名
1 1 2	応化	陸上	三好 英治
1 4 2	応化	陸上	小澤 謙雄
2 2 1	管理	航空	久保 敦
2 2 1	土木	陸上	杉原 正典
2 2 2	航宇	航空	前床 泰彦
2 2 2	管理	陸上	野本 肇
2 3 3	航宇	陸上	井上 裕策
2 4 2	航宇	航空	大塚 晋介
3 1 1	応物	陸上	長濱 誠
3 1 2	機械	陸上	西田 美嗣
3 2 3	応物	海上	松崎 徹
3 3 1	機シ	陸上	達下 裕教
3 3 2	材物	海上	大松 清生
3 3 3	機シ	海上	鳥越 渉
3 4 2	機シ	陸上	中村 公多朗
4 4 1	国関	陸上	遠藤 英隆
4 4 3	国関	陸上	井上 嘉史

40期

小隊	専攻	要員	氏 名
1 1 3	航宇	航空	小坂 淳
1 2 1	地球	陸上	上野 洋介
1 4 2	管理	陸上	朽木 誠
1 4 2	航宇	航空	山田 賢治
2 3 1	機械	陸上	高田 善行
2 3 3	機シ	陸上	永友 恒知
2 3 3	応物	陸上	奈良 一志
3 1 2	精機	航空	守井 孝志
3 1 3	国関	陸上	熊本 巖
4 1 3	電子	陸上	岩本 正臣

41期

小隊	専攻	要員	氏 名
1 1 1	材物	陸上	片上 裕文
1 1 1	機シ	陸上	島ノ江 英毅
1 2 2	応物	陸上	川崎 英輔
1 2 3	応物	航空	和崎 拓己
1 3 1	機シ	陸上	阿達 文明
1 4 1	機械	陸上	吉村 裕樹
1 4 3	機シ	陸上	三宅 英明
3 1 3	応化	陸上	曾我 辺信久
3 2 2	通信	海上	大川 洋史
3 2 3	管理	陸上	小林 貴
3 2 3	通信	航空	松下 尚文
3 3 2	電気	陸上	綿貫 俊一
4 1 2	航宇	航空	ゲバンダス
4 2 1	電子	陸上	小段 雄三
4 2 1	土木	陸上	佐久 間博
4 2 1	土木	陸上	中江 宏彰
4 3 1	土木	陸上	建部 広喜
4 3 2	航宇	陸上	石井 伸幸
4 4 1	航宇	陸上	黒田 彰
4 4 1	地球	陸上	後藤 仁志

42期

小隊	専攻	要員	氏 名
1 4 2	理工		古賀 伸之
1 4 2	理工		葛西 成彦
2 2 1	理工		寺田 昌弘
2 2 1	理工		土本 邦義
2 2 1	理工		尾崎 公彦
2 2 2	理工		平野 仁之
2 4 1	理工		清水 辺大
3 1 1	理工		藤本 裕介
3 1 3	理工		井田 輝彦
4 1 1	理工		徳永 旦
4 4 1	理工		清水 優
4 4 1	人文		永島 透

平成7年度少林寺拳法部年間計画

区分	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
学校行事				19-30 春季休暇 春季総技会	入校式典 春季総技会			夏季定期訓練	夏季休暇 夏季総技会			開校記念祭	冬季総技会 冬季休暇
大会等		8-10・11 寒稽古 OB杯 納会	19-22 春合宿		4 関東学生	新歓 昇段考査			夏合宿 本山合宿		14 全日本 政権交代		全自 冬季休暇
4 学年	演武期間	O B 杯	春 合 宿	演武期間	関東学生大会	基 本	昇 段 考 査	夏 合 宿	演武期間	全日本学生大会	政 権 交 代		全自衛隊大会
3 学年													
2 学年													
1 学年	基 本												

報 會 平 奧



巻 頭 言

奥平会長 上 杉 和 壽

合 掌

奥平会会員の皆様におかれましては益々ご壮健にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成6年6月4日、明治記念館において奥平名誉会長・丸川前部長の出席を頂き、現役・OBが多数参集して、少林寺拳法創部30周年記念行事を盛会のうちに終了できました。また、当日都合により参加頂けなかった多数の方からご祝儀を頂き、本誌面をお借りして御礼申し上げます。

当日の懇親では、創設当時の思い出から将来の部活の在り方まで、現役・OB一体となって話が弾み、私も久し振りに若返った気が致しました。

奥平名誉会長は、現役当時菟比べますと若干スマートになられましたが、いまだ郷里で若い人を相手に修行を励まれているとのこと、矍鑠たる姿に感銘をおぼえるとともに、OBに対して防大卒業後においても拳法の修行を続けて貰いたいとの提言には、多くの会員が汗顔の思いをしたことでしょう。

中年を迎え、またいずれ中年を迎える会員の皆さん、健康管理の一貫として拳立て、屈伸蹴り等の基礎を今一度始めてみてはいかがでしょうか。

さて、昨今の国際貢献活動に対し、我々奥平会会員の中からもこれまでに11名の仲間が参加し、厳しい環境下で活躍されてきております。

開祖 宗道臣先生は、「半ばは他人の幸せを」考えて、困難に立ち向かえる勇気と実行力をもった人間を育てることを創始の理念としており、この理念を実行しているのが我々の仲間であるということは、会員はもとより、現役拳士諸君にもおおいに誇って良いことではないでしょうか。

現在までの国際貢献活動に参加された方々の名簿を添付しますので、機会がありましたらそのご苦勞をねぎって頂きたいと思えます。

末筆になりましたが、今年も会員皆様の益々のご健勝ご発展を祈念申し上げます。

結手

奥平会国際貢献活動参加者名簿

連番	期別	氏名	参加部隊等	現(前)所属
1	20A	高岡 正明	#1カンボディア派遣施設大隊	九州地区補給処
2	22A	大本 健吾	#2カンボディア派遣施設大隊	101測量大隊
3	23A	奥野 和男	ルワンダ難民救援先遣隊	陸幕装備部輸送課
4	23A	日高 政弘	ルワンダ難民救援隊	陸幕防衛部運用課
5	24A	浅野 博義	ONUMOZ司令部	幹部学校
6	26A	吉田 吉宏	#1カンボディア派遣施設大隊	施設学校
7	31A	石丸 威司	#3モザンビーク派遣輸送調整中隊	(第5施設大隊)
8	31A	吉武 辰明	#1カンボディア派遣施設大隊	輸送学校
9	31N	大井 一史	#1モザンビーク派遣輸送調整中隊	第124航空隊
10	32A	大塚 裕治	#1モザンビーク派遣輸送調整中隊	中央会計隊
11	34A	能井 智治	#2カンボディア派遣施設大隊	北部方面武器隊

平成6年度奥平会活動概要

1 現役部員に対する支援

春季・夏季合宿、関東・全日本学生大会、全国自衛隊大会等に対し支援を実施致しました。また、ご多忙中にも係わらず、多数のOBの皆様が大会等の応援に駆けつけてくださいました。誠に有難うございます。来年度につきましてもできる限り大会の予定を御連絡いたしますので、応援の程よろしくお願い致します。

2 30周年記念行事（総会）の実施

我が創部30周年を記念して本年度6月4日、東京の明治記念館におきまして、奥平名誉会長始め多数の会員の皆様の御出席を頂き盛大に開催することができました。

なお本総会におきまして「期連絡網の設置」及び「奥平会会則の明文化」について決議することができました。

なお、別項に記念品代金支援者を報告し、御礼に替えさせていただきます。

3 平成6年度会計報告

別項の通り報告します。

4 連絡事項

(1) 奥平会会則について

かねてより検討しておりました奥平会会則につきまして本年度総会におきまして承認を得ましたので、別項において御報告致します。

(2) 会員名簿の更新について

会員名簿につきまして所属等不明者は、空欄にしております。本人若しくはその所属等を知っておられる方、また記載内容の間違い等にお気づきの点がございましたら、期連絡担当者または防大本部庶務まで御連絡下さい。

なお、所属等不明者には部誌を発送しておりません。

(3) 期連絡網の設置について

期連絡網について別項のように設置しましたので会員の皆様におかれまして住所の変更等ありましたら期連絡担当者まで御連絡お願いします。

(4) 本部連絡先

防衛大学校43中隊 1等陸尉 中村大助（庶務）

TEL 専用線 8-40-2643

局線 0468-41-3810

(5) 平成6年度奥平会本部

会 長	15A	上杉和壽(階 2561)	幹 事	31F	阿部博文(階 2241)
副会長	18A	紫村敬二(階 2710)	〃	32F	高橋秀雄(階 2435)
幹 事	25F	尾崎信朗(階 2743)	〃	34A	松永康則(階 2612)
〃	25A	佐伯義次(階 2733)	〃	34A	田中一要(階 2459)
〃	26F	福島 睦(階 2731)	〃	35A	竹内博忠(階 2523)
〃	27N	五領隆男(階 2721)	〃	35A	大西純児(階 2430)
〃	30A	中村大助(階 2643)		22A	財城昭彦(3階入徒)
幹 事	31N	迫田浩文(階 2430)		26N	市坪秀明(3階入徒)

(6) その他

ア 会員の慶弔がありましたら、期連絡担当者若しくは防大本部庶務までご本人または近傍の会員の方から御一報頂きますようお願いいたします。

イ 現役部員に対する経済的支援をいつでも受け付けていますので、本部まで連絡下さい。なお、支援者はその年度の部誌に名簿を掲載させていただきます。

5 奥平会名簿

別項の通り御連絡します。

奥平会30周年記念品代金支援者

番号	期別	氏名	支援金	番号	期別	氏名	支援金
1	部長	菅野 等	5000	41	18A	上田 正文	2000
2	前部長	丸川 武志	5000	42	18A	宮田 秀二	5000
3	稽録	今別府政実	2000	43	18N	平原 誠	3000
4	稽録	奥平 正人	1000	44	18N	松井 博	5000
5	師範	田村 倉蔵	10000	45	18F	笠原 久	1000
6	師範	神田 憲和	10000	46	18F	勘米良幸一	2000
7	師範	頼富 英武	10000	47	18F	長尾 斎	1000
8	11F	藤田 尚	1000	48	19A	青柳 忍	2000
9	13A	高本 俊之	1000	49	19A	前之園敏雄	2000
10	14A	清水 重周	3000	50	19A	屋久 俊郎	10000
11	14A	中原 勇	5000	51	19A	園部 武典	6000
12	15A	上杉 和壽	2000	52	19A	横島 秋男	1000
13	15A	加藤三千夫	1000	53	19A	津留崎清宝	5000
14	15A	古川 照久	1000	54	19A	古庄 和裕	1000
15	15N	山下 啓介	60000	55	19A	三星 忠正	3000
16	15N	中島 栄一	5000	56	19F	田中 秀明	2000
17	15F	福嶋 健治	2000	57	19F	後藤 章	2000
18	16A	富本 啓一	1000	58	19F	小曲 一之	1000
19	16A	芦岡 広明	1000	59	19F	郷田 進	1000
20	16A	斉藤 健治	1000	60	19F	松下 睦裕	1000
21	16N	阿部 哲夫	2000	61	19F	藤井 和弥	1000
22	17A	福澤 賢	3000	62	20A	楠本 裕幸	1000
23	17A	吉川 雄二	3000	63	20A	半澤 康司	3000
24	17A	中尾 吉孝	3000	64	20F	岸本 昌文	1000
25	17A	鈴木 陽	1000	65	20F	南園 宏	1000
26	17A	広瀬 誠	1000	66	20F	田中 和之	1000
27	17N	塔岡 道夫	5000	67	20F	廣江 勝馬	1000
28	17F	澤 博海	5000	68	21A	澤井 研次	1000
29	17F	永富 信吉	1000	69	21F	田原 俊之	1000
30	17F	西岡 義博	1000	70	21F	真田 雅章	10000
31	17F	磯野 茂樹	1000	71	22A	永栄 文晴	10000
32	18A	安藤 恒夫	1000	72	22A	財城 昭彦	10000
33	18A	首藤 敏明	1000	73	22A	野口 利保	10000
34	18A	門野 睦廣	2000	74	22N	高塚 裕幸	3000
35	18A	麩澤 章雄	3000	75	22A	松村 利宏	1000
36	18A	工藤 重見	2000	76	22A	吉岡 聖二	1000
37	18A	中島 仁文	2000	77	22F	木戸 文夫	1000
38	18A	渡辺 義行	2000	78	22F	堂込 勝也	1000
39	18A	河野 基春	2000	79	22F	永瀧 盛重	1000
40	18A	紫村 敬二	3000	80	22F	酒井 伸	1000

番号	期別	氏名	支援金	番号	期別	氏名	支援金
81	23A	日高 政宏	1000	124	28A	藤原 修	1000
82	23A	日高 政広	2000	125	28A	湯浅 悟郎	1000
83	23A	廣塚 雅史	2000	126	28A	古賀 敏明	2000
84	23N	数野 謙一	1000	127	28A	岡澤 武彦	1000
85	23N	山下 啓治	2000	128	28N	鶴見 耕市	2000
86	23F	松尾 茂	1000	129	29A	新保 博徳	1000
87	24F	出口 潔	2000	130	29A	坂井 辰也	2000
88	24A	金田 辰美	2000	131	29A	大川 浩史	2000
89	24A	山田 雅巳	1000	132	29A	立林 剛	1000
90	24A	大久保和美	3000	133	30A	福田 洋司	2000
91	24A	稲葉 貞志	1000	134	30A	山口 芳正	1000
92	24A	太田 尚志	1000	135	30A	矢納 裕二	1000
93	24A	山川 純次	1000	136	30A	土屋 甲吉	2000
94	24N	佐伯 泰啓	2000	137	30F	西本 彰雄	5000
95	24F	佐藤 秀幸	1000	138	31A	池ノ本八郎	1000
96	24F	中館 利光	1000	139	31A	吉武 辰明	10000
97	24F	山田 真一	1000	140	31N	迫田 浩文	2000
98	25A	大内 元	1000	141	31F	阿部 博文	2000
99	25A	重石 義幸	1000	142	31F	北村 克晶	2000
100	25A	小野寺靖	2000	143	31F	渋沢 寛	2000
101	25A	田草川茂人	2000	144	32A	中村 裕亮	2000
102	25A	佐伯 義次	3000	145	32A	大塚 裕治	3000
103	25N	杉原 耕二	2000	146	32A	小田 益男	5000
104	25N	内山 哲也	2000	147	32A	福元 昌二	5000
105	25F	尾崎 信朗	3000	148	32F	鈴木 憲	3000
106	25F	藤吉 恵一	2000	149	32F	植村 茂己	1000
107	25F	安芸 一	1000	150	32F	高橋 秀雄	2000
108	25F	坂本 卓己	1000	151	33A	山本 真也	2000
109	26A	内海 浩	1000	152	33A	富樫 勇一	2000
110	26A	石川 暁	20000	153	33F	高草木浩寿	1000
111	26A	谷 俊彦	1000	154	33F	岡本 秀文	5000
112	26N	道満 誠	3000	155	34A	田中 一要	2000
113	26N	杉山 義和	2000	156	34N	丹羽 満良	1000
114	26N	水野 伸彦	3000	157	34F	小笠原卓人	3000
115	26F	池畠 暢也	1000	158	34F	田代 秀也	1000
116	26F	米子 誠二	1000	159	35A	川嶋 和之	1000
117	26F	星川 敦	1000	160	35A	中本 尚明	4000
118	26F	福島 睦味	3000	161	35A	竹内 博忠	2000
119	27A	川村 治彦	10000	162	35F	中澤 武志	10000
120	27A	大居 一之	1000	163		宿久 俊郎	1000
121	27F	元木 啓嗣	2000	164	4空団	23飛行隊	10000
122	27F	堀田 隆治	2000	165		不明	1000
123	28A	幸野 英明	2000				

平成6年度会計報告

(H6. 2. 4~H7. 1. 10)

収 入		支 出	
1 前年度繰越金	880,899	1 各種大会支援等	
		(1) 関東学生大会	62,000
2 OB会費		(2) 全日本学生大会	80,000
(1) 38期(13名分)	665,000	(3) 全自衛隊大会	20,000
(2) 39期(16名分)	816,000	(4) 合 宿	50,000
3 30周年記念行事		2 30周年記念行事関連	
(1) 御厚志	405,950	(1) 記念品代金	
(2) 祝賀会残金	29,688	ア 部 旗	144,200
		イ 木 札 (¥ 100,000)	
4 利 息		次年度支払い予定	
(1) 前 期	7,752	(2) 祝賀会経費	274,890
(2) 後 期	5,821	3 部誌発行費(平成5年度分)	232,154
		4 奥平会運営及び活動費	
		(1) 総会及び幹事活動費	207,961
		(2) 通信事務費等	1,180
合 計	¥ 2,811,110	合 計	¥ 1,072,385
残高(収入-支出) = ¥ 1,738,725 次年度繰越			

防衛大学校少林寺拳法部奥平会会則

(名称組織)

第1条 本会は、防衛大学校少林寺拳法部奥平会（以下「奥平会」という。）と称し、防衛大学校少林寺拳法部（以下「少林寺拳法部」という。）に卒業時所属していた者及び一時所属していた卒業生で入会を希望する者をもって組織する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を図ること、少林寺拳法部の発展向上に資することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員相互の融和団結の促進
 - ア 総会の開催
 - イ 部隊等における支部の設立と活動に対する支援
 - ウ 会員の慶弔に関すること
 - (ア) 結婚・・・祝電
 - (イ) 死亡・・・花輪、弔電
- (3) 会員の修業の便を図ること
- (4) 少林寺拳法部への支援
 - ア 合宿
 - イ 関東、全日本、その他の大会
 - ウ OB杯大会
- (5) 会員による現役部員の激励及び応援等の支援に対する謝礼
基準 2000円
- (6) その他、本会の目的を達成するため会長が必要と認める事項

(経費)

第4条 本会の経費は、会員より徴収する会費及び寄付等の支援金によるものとする。

(会費)

第5条 20期以前の会員は一律5000円、21期以降の会員は卒業時における学生手当の2分の1（1000円未満切捨て）を終身会費として納入するものとする。

なお、一旦納入した会費は返還しない。

(特別会費)

第6条 前条に定めるほか、特別の出費を要するときには、その都度会員から特別会費を徴収する。

(本部)

第7条 本会の本部は、防衛大学校（少林寺拳法部）内に置く。

(名誉会員)

第8条 会長は、次に掲げる者を役員会に諮り名誉会員にすることができる。

- (1) 防衛大学長
- (2) 少林寺拳法部の部長、師範、顧問及びその経験者
- (3) その他、少林寺拳法部の発展に功績のあった者

(役員)

第9条 本会の役員は、会員のうちから選出する。役員任期は1年とし、再任を妨げない。

2 本会に次の役員を置く。

- | | |
|------------|--------|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 1名 |
| (3) 幹事 | 本校在職会員 |
| (4) 会計監査委員 | 1名 |

(会長)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総理するとともに、顧問会との連絡調整にあたる。

- 2 会長は、会員の中から副会長、幹事、会計監査委員を任命する。
- 3 会長は、原則として防大または防大近傍勤務の会員の中から前任者の推薦によって選考する。

(副会長)

第11条 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき之を代行する。

- 2 会長は、防大勤務の会員の中から適任と思われる者を副会長に任命する。
- 3 会長が、防大内に勤務する場合、副会長を置かないことができる。

(幹事)

第12条 幹事は、会長、副会長を補佐し、会務を処理する。

- 2 会長は、防大に勤務する会員を総員幹事に任命する。

(会計監査委員)

第13条 会計監査委員は、年度末及び臨時に会の会計を監査し、会長及び会員に報告する。

2 会計監査委員は、防大または防大近傍の会員の中から会長が任命する。

(運営)

第14条 本会は、総会の決議に基づいて運営する。但し、急を要する事項、若しくは軽易な事項は、会長が役員会に諮って決することができる。

(総会)

第15条 総会は、原則として年1回会長が召集する。但し、必要と認めたときは、臨時に召集することができる。

2 総会は、会員15名をもって成立する。

3 総会の議長は、会長がこれに充たるものとする。

4 総会の議事は、出席した会員のうち過半数以上の賛同により、成立するものとする。

(会務)

第16条 本会の会務を円満に処理するため、会長は幹事の中から書記2名を選任する。

2 書記は、庶務と会計とに分掌して処理する。

3 庶務担当書記は、主に庶務事項に関して会務を分掌する。

(1) 少林寺拳法部の試合日程、合宿等を会員に知らせ、会員の応援を促す。

(2) 少林寺拳法部と協力して、年1回会報を作成し、会員に部の状況を知らせるとともに、大きな大会等主要な行事の際には、その都度状況を知らせる。

(3) 役員名簿を作成し、各役員に配布する。

4 会計担当書記は、会費を管理し、主に会計事項に関して会務を分掌する。

(1) 会費を徴収する。

(2) 会費納入名簿を作成する。

(3) 会費未納者に対し、会費の納入を促す。

(4) 毎会計年度終了後、特別会費を徴収した場合はその都度、決算報告を作成し総会の承認を得た後、会員に通報する。

(会計)

第17条 本会の会計年度は、1月1日に始まり12月末日をもって終わる。

2 本会所管の会費は、確実なる金融機関（防衛庁共済組合を含む）へ預け入れるものとする。

(会費の使途)

第18条 本会の会費は、次のことにより使途するものとする。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員の慶弔に関すること
- (3) 少林寺拳法部への支援
- (4) 会費等による少林寺拳法部支援等に対する報償費
- (5) 奥平会、少林寺拳法部の円滑なる運営上必要と認め、会長が役員会に諮り賛同を得た事項

(地区連絡網)

第19条 会務の円滑化を図るため、各地区に連絡網を整備する。作成単位は陸上自衛隊においては方面隊、海上自衛隊においては地方総監部、航空自衛隊においては航空方面隊、退職者については本部とする。作成責任者は各所在先任者とし連絡網作成の都度本部あて報告するものとする。

(退会)

第20条 会員で退会しようとする者は、会長に申し出るものとする。

(規則の改正)

第21条 本会の規則は、総会によって変更することができる。

- 2 前条の場合、出席会員の3分の2以上の賛同を得なければならない。

附則

この会則は、平成6年7月1日から施行する。

期連絡網の設置

1 主旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理する。

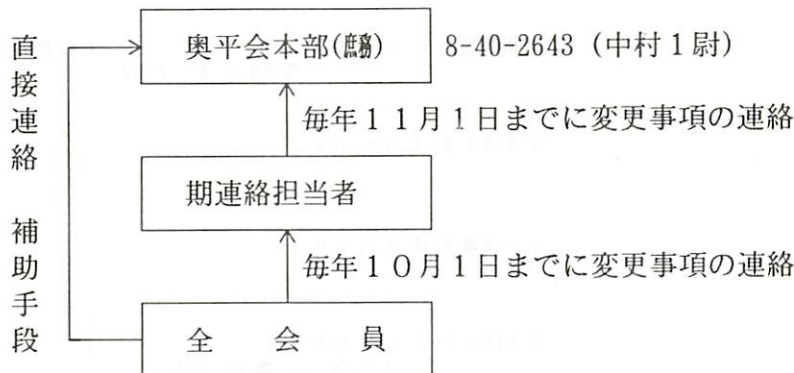
2 連絡の要領

- (1) 各期に1名、連絡担当者を置く。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年10月1日までに同期の連絡担当者に連絡し、変更事項を告げる。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年11月1日までに奥平会本部（防大庶務）に連絡する。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人毎直接または連絡担当者を通じて奥平会本部に連絡するものとする。

3 連絡担当者の指名

3年を任期とし、次の担当者を指名する。（継続を妨げない）

4 期連絡網



5 期連絡担当者(H6. 6~H8. 5)

10	10A	蔵田 弘明	市ヶ谷	25	25N	内山 哲也	檜町
11	11A	勝野 建朗	川西	26	26F	福島 睦	防大
12	12A	衛藤 利治	南恵庭	27	27F	堀田 隆治	岐阜
13	13A	高本 俊之	日本原	28	28A	湯浅 悟郎	目黒
14	14A	清水 重周	東千歳	29	29A	古川 靖人	武山
15	15A	上杉 和壽	檜町	30	30A	福田 洋司	土浦
16	16A	富本 啓一	檜町	31	31N	迫田 浩文	防大
17	17A	福澤 賢	海田市	32	32A	福重 毅尚	富士
18	18F	笠原 久	檜町	33	33A	富樫 勇	滝ヶ原
19	19A	前之園敏雄	目黒	34	34A	竹内 博忠	防大
20	20A	小林 実	富士	35	35A	戒田 重雄	習志野
21	21A	湖崎 隆	檜町	36	36A	藤岡 史生	真駒内
22	22A	松村 利宏	檜町	37	37N	高取 哲朗	横須賀
23	23A	日高 政広	檜町	38	38A	奇藤 浩	神町
24	24F	中館 利光	千歳	39	39A	中村公多朗	

奥平会名簿

1 名 誉 会 員

職 名	氏 名	現 所 属	連 絡 先	備 考
部 長	菅野 等	化学教室	〒236横浜市金沢区釜利谷東6丁目34番 1-411 TEL.045-786-5877	防大 2401
師 範	田村倉蔵		〒187小平市美園町3-27-5 TEL.0423-43-0416	
師 範	神田憲和		〒272市川市泉高2-12-5-705	
前部長	丸川武志		〒120足立区小台2-33-2 TEL.03-3919-5910	
元校友 会会長	土田國保		〒115東京都北区西が丘1-28-4 TEL.03-3900-0409	
元顧問 (OB以外)	奥平正人 (奥平会名誉会長)		〒828豊前市小石原392-3 TEL.0979-82-2287	10期～ 4大隊指導教官
"	松木 浩		〒359所沢市泉町908-21	
"	前原良弘		〒252藤沢市高倉950-5	
"	松本宏		〒110立川市若葉町1-13-2 けやき台団地18-203	
"	穴戸俊之		〒237横須賀市田浦港町24 TEL.0468-22-3500	
"	森田晃一	12教団 整備群司令		17～19期 指導教官
"	辻 勇雄	横須賀地方 總監部防衛 部第1室	〒237横須賀市追浜本町2-50 海自室ノ木宿舎123号 TEL.0468-66-7150	S51.12～ S54.1 指導教官
"	今別府政実	第4特科 連隊 第2大隊長	〒830久留米市国分町100 陸自4特連2大 TEL.096-242-5112	S55.3～S57.8 指導教官
"	富野 博	空幕人計課	〒277千葉県柏市根戸467-103 2-404	H1.3～H3.8 指導教官
"	米村ゆかり	技術研究本 部		研究科28期

2 正会員

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
10A	蔵田 弘明	市ヶ谷	中央調査隊	
10A	黒野 耐	目黒	応永研究所	
10A	清水 篤男	富士	富士学校企画室長	
10A	松島 順一	金沢	第14普通科連隊	
10A	三井 光夫	目黒	防衛研究所	
10N	岡崎 昭一	退職	〒231 横浜市中区本牧原11-1-1103 三浦海岸ハイウェイ14-1441	
10F	鈴木 勝人	浜松	1空団	
10F	出田 弘一	芦屋	3術整備部長	
11A	勝野 建朗	川西	阪神地区病院	
11A	須ヶ崎 了英	市ヶ谷	統幕校教育課長	
11A	広岡 征夫	新潟	新潟地方連絡部	
11A	水野 照夫	松戸	需品補給処	
11N	佐藤 正秀	鹿屋	第211教育航空隊副長	
11N	渡辺 貞吉	佐世保	佐世保戦術訓練装置運用隊	
11F	上田 勇作	退職	南国殖産(株)	
11F	坂元 正昭	退職		
11F	清水 正睦	府中	総隊防衛部長	
11F	田谷 俊之	仙台	東北方面総監部	
11F	藤田 尚	目黒	幹部学校	
12A	新井 宏	死亡		
12A	衛藤 利治	南恵庭	3施設団高級幕僚	
12N	佐藤 備凡	横須賀	護衛艦「きくづき」艦長	
12N	津川 保夫	呉	呉地方総監部管理部援護業務室	
12N	橋田 典幸	横須賀	自衛艦隊開発隊運用開発第3科長	
12F	野中 紘治	名古屋	調本名支検1主任検査官	
12F	野口 昭徳	檜町	調査隊副司令	
13A	石原 薩雄	久留米	幹候校	
13A	白石 克成	市ヶ谷	東方人事部	
13A	高本 俊之	日本原	日本原業務隊	
13A	戸田 勝秋	宇治	関西補給処需品課	
13A	西村 繁樹	目黒	幹部学校付	
13A	益田 修	大久保	7施設群副長	
13F	松生 剛	那覇	南警隊	
14A	赤瀬 良二	郡山	郡山業務隊長	
14A	斉藤 正精	退職	日本IBM(株)	
14A	清水 重周	東千歳	第7後方支援連隊長	
14A	清水 直正	新町	新町業務隊	
14A	中原 勇	留萌	第26普通科連隊	
14A	原田 敏男	海田市	第13後方支援連隊	
14F	今井 岸男	退職	三陽機器(株)	
14F	高須 好美	退職	高須電気エンジニアリング(株)	
14N	森田 則広	岩国	第31航空群第81航空隊 飛行隊長	
15A	井口 昌之	大宮	化学学校研究部 装備研究科長	
15A	上杉 和壽	檜町	陸幕輸送課鉄道船舶班長	
15A	大竹 義信	古河	施設補給処整備部整備管理課長	
15A	岡 隆	武山	第1教育団第104教育大隊長	
15A	長船 敬天	横須賀	横須賀陸上連絡官	
15A	奥野 耕三	宇治	関西地区補給処企画室計画幹部	
15A	加藤 三千夫	仙台	東北方面通信群長	
15A	遠田 雅美	帯広	第1対戦車ヘリ隊副隊長	
15A	土居 良治	帯広	第107地区警務隊長	
15A	花房 晃夫	伊丹	中方総監部人事部人事課服務班長	
15A	古川 照久	檜町	陸幕調査部調査1課保全班長	
15A	三嶋 利克	市ヶ谷	中央調査隊1科	
15N	今村 修治	佐世保	護衛艦「やまぎり」艦長	
15N	中島 栄一	八戸	第4航空隊司令	
15N	山下 啓介	退職	〒235 横浜市磯子区森が丘2丁目23の5	
15N	山崎 富雄	呉	第1潜水隊司令	
15F	島田 徹	檜町	航空中央業務隊付年次射撃連絡官	
15F	野間口 光夫	退職	鹿児島県鹿児島市皇徳寺台3-21-8	
15F	福嶋 健司	船越	自衛艦隊司令部航空連絡幹部	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
15	安村 幸次	退職	東京都世田谷区弦巻3-3-17 A-203	
16A	内山 晃	小平	調査学校	
16A	岡田 正一	宇都宮	第4施設群第3科長	
16A	佐々木 二郎	高田	第2普通科連隊副長	
16A	斎藤 健治	小平	業務学校会計教育部	
16A	竹内 準一	三軒屋	三軒屋弾薬支処総務科長	
16A	富本 啓一	檜町	陸幕人事部補任課人事2班長	
16A	平川 真士	大和	第6戦車大隊長	
16A	芦岡 広明	檜町	陸幕防衛部運用課航空運用班長	
16N	阿部 哲夫	船越	誘導武器訓練隊教育部長	
16N	福島 一夫	退職	新生電工(株)営業部	
16F	小笠原 猛	入間	中警団	
16F	八木橋 享	殉職		
17A	荒木 正廣	前川原	幹部候補生学校企画室	
17A	飯島 定雄	檜町	防衛施設庁(本)	
17A	小池 保治	守山	第10師団3部長	
17A	小坂 正志	市ヶ谷	調別	
17A	佐藤 吉信	市ヶ谷	統幕学校教官	
17A	鈴木 陽	檜町	陸幕人事部補任1班長	
17A	高橋 輝正	退職	愛知県豊橋市多米中町4丁目夏目ハイ202	
17A	富安 久芳	前川原	幹部候補生学校第1候補生隊長	
17A	中尾 吉孝	防医大	訓練課課長補佐	
17A	廣瀬 誠	檜町	陸幕人事部企画班長	
17A	福澤 賢	海田市	13師団司令部1部長	
17A	村田 芳次	久里浜	通信学校第2教育部	
17A	吉川 雄二	三宿	技術研究本部技術開発官総括室	
17N	塔岡 道夫	江田島	第1術科学校教官	
17N	西嶋 正幹			
17N	久和 清幸	横須賀	第1海上訓練指導隊訓練科長	
17F	石渡 幹生	檜町	空幕調査1課	
17F	稲見 潔	檜町	空幕補給2班長	
17F	澤 博海	退職	東広島市西条町吉行1-40	
17F	永富 信吉	檜町	空幕総務課	
17F	西岡 義博	檜町	空幕法務課	
17F	細田 敏夫	退職	高崎市石原町1729-1	
17F	前田 慎一	府中	支援集団	
17F	松田 清明	檜町	空幕建設2班長	
17F	山本 剛	退職		
17F	磯野 茂樹	檜町	空幕防衛部防衛課	
18A	安藤 恒夫	檜町	檜町業務隊総務課援護室長	
18A	上田 正文	小平	業務学校人教部	
18A	大西 正俊	檜町	陸幕防衛部研究課研究班長	
18A	河野 基春	建軍	西方総監部装備部施設課營繕班長	
18A	川原 彰	旭川	第106警務隊長	
18A	門野 睦廣	檜町	陸幕通信電子課通信器材班	
18A	工藤 重見	大宮	化学学校研究部装備開発科	
18A	首藤 敏明	檜町	陸幕装備部需品課需品班	
18A	紫村 敬二	防大	第1大隊首席指導官	
18A	千原 和人	高知	高知地連	
18A	中島 仁文	健軍	西方総監部人事部	
18A	麩澤 章雄	札幌	札幌地連本部援護課	
18A	宮田 秀二	高遊原	西部方面航空野整備隊	
18A	渡辺 義幸	健軍	西方総監部防衛部防衛課運用班長	
18N	岩瀨 秀樹	檜町	東京業務隊付統幕(一般)学生	
18N	近藤 清司	厚木	第51航空隊	
18N	平原 誠	目黒	幹部学校付幹部(高級)学生	
18N	松井 博	檜町	海幕装備部航空機課	
18F	笠原 久	檜町	空幕援護業務課	
18F	白数 裕樹	退職	京都市右京区西京極南大入町54-5	
18F	長尾 齋	府中	支援集団航空管制課長	
18F	勘米良 幸一	春日	西空司令部装備部	
19A	青柳 忍	弘前	第39普通科連隊第3科長	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
19A	迫田直心	信太山	第37普通科連隊第3科長	
19A	園部清典	檜町	陸幕調査部調査第2課2班	
19A	津留崎津宝	勝田	施設学校第1教官室	
19A	野村俊明	三宿	技術研究本部技術開発官第1開発室	
19A	広瀬和紀	小倉	第40普通科連隊第3科長	
19A	東光博	退職	浦安市弁天2-17-12	
19A	古庄和裕	富士	富士学校特科部研究科	
19A	前之園敏雄	目黒	幹部学校企画室	
19A	三星忠正	仙台	東北方調査隊仙台派遣隊長	
19A	屋久俊郎	北千歳	第1特科群	
19A	横島秋男	檜町	陸幕調査部調査第2課4班	
19N	松山守秀	檜町	海幕防衛課	
19F	磯光三	入間	第4補給所	
19F	小曲一之	檜町	統幕3室	
19F	郷田進	白山	4高群14高射隊長	
19F	後藤章	退職	春日市若葉台西3-40	
19F	杉山昌宏	退職		
19F	園山栄一	退職	北九州市門司東1-1-20-10	
19F	田中秀明	檜町	施設庁	
19F	藤井和弥	市ヶ谷	補給本部	
19F	松下睦裕	市ヶ谷	幹部学校付	
19F	吉本博	府中	支援集団	
20A	浅原昭夫	三宿	技術研究本部技術開発官第1開発室	
20A	楠本裕幸	檜町	統幕事務局第3幕僚室	
20A	小林実	富士	総合研究開発部第3研究室	
20A	榊喜隆	真駒内	第8通信大隊長	
20A	高岡正明	健軍	九州地区補給処健軍支処	
20A	仲原久晃	練馬	第1後方支援連隊武器隊長	
20A	半澤康二	伊丹	中部方面総監部人事部人事課総括班長	
20A	馬場崎修	退職		
20A	伏木享	富士	第308武器野整備中隊	
20A	山形克己	仙台	東北方総監部人事部第1班長	
20N	木村孝彦	岩国	第31航空群司令部幕僚	
20F	石田裕	檜町	施設局	
20F	岸本昌文	築城	8空団	
20F	高林久	新田原	5空団	
20F	岳川清美	千歳	北警団8移警隊長	
20F	南園宏	檜町	空幕副監察官	
20F	田中和之	三沢	北警団	
21A	大谷昭次郎	富士	富士学校普通科部第1戦術班	
21A	加藤隆	具知安	第29普通科連隊第3科長	
21A	貴志倫生	伊丹	第310基地通信中隊長	
21A	桑原幹夫	檜町	檜町駐屯地業務隊付	
21A	湖崎隆	檜町	陸幕教訓部教育課演習班	
21A	澤井研次	美幌	第6普通科連隊第3科長	
21A	園田郁夫	習志野	第1空挺団 特科大隊長	
21A	高橋久奏	秋田	秋田地方連絡部	
21A	野中敏治	宇都宮	宇都宮業務隊総務科	
21A	花田一志	仙台	東北方面調査隊	
21A	浜崎勝	富士	富士学校特科部	
21A	渡部誠	駒門	第1特科連隊情報中隊	
21N	城山宏	退職		
21N	福岡誠	船越	潜水艦隊司令部	
21N	村田隆齊	佐世保	護衛艦「きりしま」ぎ装員	
21N	山口次郎	小松島	小松島航空隊	
21F	木山幸保	入間	中警団	
21F	黒沢豊彦	浜松	1術校	
21F	真田雅章	檜町	空幕通電課	
21F	朱永武	留学生	シンガポール在住	
21F	杉本弥行	芦屋	3術校	
21F	鍋島和史	退職		
21F	沼田幸男	入間	2輸送隊	

期別	氏名	基地等	所屬部隊等	備考
21F	平本 行	根室	1防群104基防隊長	
21F	廣江 勝馬	檜町	空幕厚生課	
21F	松本 修司	人間	中警団	
21F	田原 俊幸	市ヶ谷	幹部学校付	
22A	大本 建吾	東立川	第101測量大隊画像解析班長	
22A	財城 昭彦	檜町	陸幕人事部人計課予備自衛官班	
22A	島松 正一	飯塚	第2高射特科団本部	
22A	永栄 文晴	檜町	陸幕装備部開発課総括班	
22A	野口 利保	檜町	陸幕教育訓練部訓練課訓練班	
22A	原田 有繁	札幌	北方監察官付	
22A	松本 俊二	札幌	11特連本部第4科長	
22A	松村 利宏	檜町	陸幕教育部教育課器材演習班	
22A	吉岡 聖二	檜町	陸幕防衛部研究課研究班	
22N	高塚 裕幸	檜町	海幕防衛部運用課	
22N	塚田 真司	檜町	海幕教育課	
22N	中谷 茂	横須賀	第13掃海隊 司令	
22N	延近 保生	那覇	第5航空群司令部幕僚	
22N	坊垣内 広明	横須賀	潜水艦「おきしお」副長	
22F	木戸 文夫	檜町	空幕運用課	
22F	小関 信宏	人間	電子開発実験群	
22F	酒井 伸	春日	西空	
22F	堂込 勝也	檜町	空幕教育課	
22F	永瀧 盛重	檜町	空幕通電課	
22F	野村 勝廣	新田原	5空団	
22F	横手 裕明	千歳	千歳管制隊長	
23A	奥野 和男	檜町	陸幕装備部輸送課	
23A	谷崎 敏広	釧路	第27普通科連隊	
23A	廣塚 雅史	富士	富士学校 普通科教育科訓練班	
23A	日高 政広	檜町	陸幕防衛部運用課運用1班	
23A	丸山 和宏	旭川	2師団3部	
23A	三木 元秀	千僧	第3通信大隊	
23A	若杉 治徳	札幌	北方総監部防衛部	
23A	岩田 清文	檜町	陸幕防衛部	
23A	浦川 平次	小倉	第40普通科連隊重迫中隊長	
23N	井之久保 雄三	横須賀	護衛艦「しらね」船務長	
23N	井口 義定	茨城	茨城地連	
23N	数野 謙一	舞鶴	練習艦「かしま」ぎ装員	
23N	畑中 孝行	舞鶴	護衛艦「はるゆき」副長	
23N	山下 啓治	檜町	海幕総務課	
23N	四元 和生	船越	潜水艦隊司令部幕僚	
23F	池邊 正	檜町	空幕防衛課	
23F	馬谷 誠二	退職	東大阪市日下町3-1-5-319	
23F	川添 一正	退職		
23F	シンナロン	留学生	タイ王国在住	
23F	松尾 茂	檜町	空幕技1課	
23F	宮田 義章	百里	7空団	
24A	浅野 博義	練馬	幹部学校	
24A	稲葉 貞志	檜町	陸幕装備部航空機課総括班	
24A	太田 尚志	檜町	陸幕人事部補任課人事第1班	
24A	和久保 和美	練馬	第1普通科連隊第2中隊長	
24A	金田 辰美	横浜	調達実施本部	
24A	芹川 慎介	市ヶ谷	中央調査隊付	
24A	高澤 慎司	退職	(株)東京アイシーエス	
24A	常田 義則	退職	小田原市千代475-1	
24A	中村 健蔵	練馬	幹部学校	
24A	西津 護	富士	富士学校学生課	
24A	瀨 康隆	目黒	技術研究本部	
24A	堀之内 誠	東立川	101測量大隊	
24A	山田 雅巳	檜町	陸幕調査第1課	
24A	山川 純次	檜町	陸幕装備部開発課総括班	
24N	小川 勝志	横須賀	潜水艦「ふゆしお」ぎ装員	
24N	佐伯 泰啓	佐世保	護衛艦「さわぎり」船務長	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
24N	中村 早速	呉	第1輸送隊	
24N	長谷川 隆	退職		
24N	松田 俊宏			
24N	山本 浩	退職	北九州市小倉南区湯川3-8-16	
24F	佐藤 秀幸	檜町	空幕運用課	
24F	清水 尚志	入間	補給本部付	
24F	出口 潔	檜町	空幕会計課	
24F	中館 利光	千歳	2空団	
24F	藤城 希恭	松島	第4航空団防衛部運用班長	
24F	山田 真一	新田原	5空団	
25A	石川 哲也	札幌	北方總監部防衛部	
25A	大内 元	檜町	陸幕人事部補任課2班	
25A	岡元 正一	久留米	第4特科連隊第3科	
25A	小野寺 靖	神町	第6師団司令部訓練班長	
25A	小菅 康雄	霞ヶ浦	武器補給処技術部	
25A	佐伯 義次	防大	第33中隊指導官	
25A	重石 喜幸	陸幕	陸幕防衛部運用課運用1班	
25A	田草川 茂人	山口	17普連第1中隊長	
25A	若本 順二	日本原	中方調査部	
25N	内山 哲也	檜町	海幕総務課兼長官官房秘書課	
25N	籠谷 貴年	横須賀	横須賀地方總監部人事部人事課	
25N	河村 正雄	檜町	東京業務隊付	
25N	杉原 耕二	檜町	海幕防衛部防衛課防衛班	
25N	高島 修	厚木	第51航空隊調査研究隊	
25F	安芸 一	檜町	空幕防衛課	
25F	尾崎 信朗	防大	第43中隊指導官	
25F	坂本 卓己	奈良	幹部候補生学校教育部第1科	
25F	藤吉 恵一	入間	補本計画部企画課	
26A	石川 毅	板妻	第34普通科連隊2科長	
26A	内海 浩	檜町	陸幕装備部開発課開発2班	
26A	小野 長門	退職	熊本(熊本工大)	
26A	及川 幸夫	高田	第2普通科連隊第2中隊長	
26A	金子 寿弥	土浦	武器学校教育部	
26A	坂野 佳彦	京都	京都地連	
26A	谷 俊彦	留萌	26普通科連隊	
26A	滝沢 由則	退職	札幌市中央区南12西16 滝沢由子方	
26A	友部 隆	俱知安	第29普通科連隊第1中隊長	
26A	中村 明広	退職	横浜市緑区長津佐3-27-14	
26A	河原 敏和			
26A	松田 正行	富士	富士学校機甲科部	
26A	山下 清隆	下志津	高射学校	
26A	吉田 英紀	前川原	幹候校	
26A	吉田 吉宏	勝田	施設学校	
26A	石山 暁	松本	13普通科連隊	
26N	市坪 秀明	余市	ミサイル艇1号艇長	
26N	上野 真一郎	目黒	東京業務隊付 幹部(CS)学校学生	
26N	佐藤 寿紀	大村	大村航空基地隊付幹部(専攻科)学生	
26N	杉山 義和	横須賀	第22掃海隊「まえじま」艇長	
26N	道満 誠一	目黒	東京業務隊付 幹部(CS)学校学生	
26N	平野 勝	舞鶴	舞鶴地方總監部 防衛部1室長	
26N	水野 伸彦	下総	第3術科学校教官	
26N	相良 達也	下総	第205教育航空隊	
26F	池島 暢也	檜町	空幕整備課	
26F	澤木 優輔	退職		
26F	福島 睦	防大	防大第31中隊指導官	
26F	星川 敦	市ヶ谷	補給本部第2部整備班	
26F	米子 誠二	檜町	空幕装備部調達課	
27A	大石 隆一			
27A	大場 基美雄	富士	富士学校総研部	
27A	緒方 禎浩	退職		
27A	大居 一	檜町	陸幕装備部武器化学課弾薬班	
27A	川村 治彦	退職		

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
27A	行事 正	伊丹	伊丹業務隊付	
27A	角南 良児			
27A	長合 友造	相模原	技研(4研)	
27A	津田 浩司	富士	富士学校FOC学生	
27A	濱田 秀	富士	富士学校FOC学生	
27A	馬場 政和	退職		
27A	舞原 博己	久里浜	通信学校 学生	
27A	山之上 哲郎	習志野	第1空挺団空挺教育隊研究科	
27A	米山 多佳志	練馬	幹部学校	
27N	小川 昌宏	横須賀	護衛艦「うみぎり」機関長	
27N	五領 隆男	防大	第21中隊次席指導教官	
27N	交口 俊介	京都	京都地連	
27N	中里 巧			
27N	益田 徹也	厚木	第51航空隊	
27N	山田 洋士	鹿屋	第7航空隊	
27F	足立 謹聡	秋田	航空救難団	
27F	兼古 修	新田原	5空団202飛行隊	
27F	甲斐 新太			
27F	蔵田 衛人	退職		
27F	沢村 徹	退職		
27F	高野 宗治	千歳	町田市忠住3-14-3セジュール天野II-201	
27F	西山 利昭	退職	特別輸送航空隊	
27F	堀田 隆治	岐阜	第2補給処	
27F	元木 啓嗣	府中	幹部学校付	
28A	畦地 勇	退職	東京都小平市学園西町2-10-17-203	
28A	足立 哲彦	富士	装備開発実験隊	
28A	岡沢 武彦	相模原	技術研究本部4研	
28A	北原 秀章	北千歳	第71戦車連隊	
28A	幸野 英明	目黒	幹部学校学生	
28A	古賀 敏明	旭川	第2特科連隊第1大隊	
28A	永井 大介	退職		
28A	日高 信行	富士	普通科部1戦班	
28A	藤原 修	目黒	幹部学校 #39CGS学生	
28A	三好 邦夫	富士	特科部観測班	
28A	矢野 光宏	勝田	施設学校研究部	
28A	湯浅 悟郎	目黒	幹部学校 #39CGS学生	
28A	越水 達哉	退職	土浦市右廻3035右廻ハイツア-101	
28A	吉田 正己	退職		
28N	鈴木 巧	退職		
28N	竹本 直忠	横須賀	栃木県宇都宮市緑4-1550-84	
28N	西小路 謙	退職	護衛艦「むらくも」砲雷長	
28N	内田 公明	玉野	調本大阪支部(玉野)	
28N	河津 稔一	舞鶴	舞鶴地方総監部 契約課	
28N	平島 一	退職		
28N	鶴見 耕市	退職	横浜市戸塚区品濃町553-1 J-1405	
28N	中川 勝也	退職	愛知県西加茂郡藤岡町大字石畳242-46	
28N	米田 健二	退職		
28F	今井 邦夫	千歳	特別航空輸送隊	
28F	神山 隆	退職		
28F	白水 裕人	三沢	北防群防管隊	
28F	末広 勝己	岐阜	飛実団	
28F	山田 顕嗣	秋田	航空救難団	
29A	浅川 玉樹	退職		
29A	青柳 光	退職		
29A	蛭原 良雄	土浦	武器学校教育部火器科	
29A	大川 浩史	前川原	幹部候補生学校第2候補生隊	
29A	小屋敷 秀彦	退職		
29A	駒井 紀美彦	善通寺	第2混成団第3科	
29A	佐竹 右幾	退職		
29A	坂井 辰也	久里浜	通信学校第1教育部	
29A	新保 博徳	富士	富士学校 管理部武器課	
29A	託摩 安広			

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
29A	立林 剛	下志津	高射学校	期担当
29A	津田 芳明	札幌	北部方面通信群	
29A	中村 浩之	下志津	高射学校	
29A	古田 清悟	沖縄	沖縄地連	
29A	古川 靖人	武山	少年工科学学校第3教育隊第3区隊長	
29A	谷 拓弥	目黒	幹部学校 #40 CGS	
29A	甲斐 正人	目黒	幹部学校 #40 CGS	
29A	水上 義仁	市ヶ谷	調査部別室	
29N	柏木 均	横須賀	潜水艦「おきしお」水雷長	
29N	川上 和美	退職		
29N	山崎 浩一	横須賀	第1護衛隊群司令部幕僚	
29F	熊田原 修	市ヶ谷	補給本部第2整備課	
29F	高松 実	千歳	航空救難団整備群	
29F	西村 政恭	春日	第2高群	
30A	池永 博和	市ヶ谷	東部方面総監部 防衛部	
30A	岩熊 真司	東千歳	第7後方支援連隊	
30A	魚躬 治晴	退職	東京都板橋区高島平2-33-7-818	
30A	魚住 晴康	市ヶ谷	東部方面総監部 防衛部	
30A	龟山 淳	守山	35普連	
30A	笠島 広文	退職	鯖江市水落町1丁目4-23	
30A	菅野 俊夫	久里浜	通信学校	
30A	土屋 甲吉	目黒	幹部学校 #40 CGS	
30A	中井 馨	退職	甲賀郡石部町金ヶ町865	
30A	中村 大助	防大	第431小隊指導教官	
30A	中川 洋行	三宿	技術研究本部 航空付	
30A	中森 雅美	目黒	幹部学校 #40 CGS	
30A	西 良典	富士	富士学校 普通科部	
30A	林 宏幸	座間	第3施設群	
30A	福田 洋司	土浦	武器学校研究部	
30A	船津 達男	退職		
30A	宮本 善弘	健軍	西部方面総監部 防衛部	
30A	矢納 祐二	目黒	幹部学校 #40 CGS	
30A	山口 芳正	遠軽	第25普通科連隊	
30N	鈴木 達雄	退職	西春日井郡豊川町大字豊場字流川147	
30N	時久 寛司	下総	下総航空工作所付 中級(航装)	
30N	百崎 邦彦	厚木	厚木プロ分遣隊付 専修科学生	
30N	湯浅 秀樹	船越	プログラム業務隊付	
30F	栗田 尚幸	殉職		
30F	黒田 健一	退職		
30F	後藤 豊	退職		
30F	高橋 敏	親	支援団司令部装備部	
30F	西本 彰雄	笠取山	第1警戒群運用班長	
30F	橋爪 猛	市ヶ谷	補給本部	
30F	吉田 憲司	市ヶ谷	補給本部	
31A	石丸 威司	檜町	檜町業務隊付	
31A	池ノ本 八郎	富士	装備開発実験隊車両装輪班	
31A	大島 龍一郎	退職	堺市上野芝町8-1-4	
31A	亀山 慎二	富士	戦車教導隊第4中隊長	
31A	久保 敏治	今津	第3戦車大隊	
31A	佐野 光	霞目	東北方ヘリ隊	
31A	椎野 健治	木更津	第4対戦車ヘリコプター隊	
31A	田口 直志	土浦	武器学校	
31A	辰巳 竜悟	退職		
31A	辻 政幸	真駒内	第11高射特科大隊	
31A	中川 博英	松戸	需品学校	
31A	橋本 哲彰	明野	航空学校	
31A	久富 博幸	退職		
31A	藤岡 登志樹	富士	装備開発実験隊	
31A	松井 健一	富士	装備開発実験隊	
31A	吉武 辰明	朝霞	輸送学校	
31N	蝦名 伸治	横須賀	輸送艦「みうら」航海長	
31N	岡田 岳司	江田島	幹部候補生学校	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
31N	大井 一史	館山	21空群第124航空隊	
31N	甲斐 義博	江田島	1術校付中級(用兵)学生	
31N	久保田 修一	大湊	第35護衛隊	
31N	迫田 浩文	防大	防大研究科	
31F	阿部 博文	防大	防大研究科	
31F	北村 克晶	兵庫	三菱電気(研修)	
31F	小南 良人	殉職		
31F	近藤 良彦	浜松	1航団	
31F	渡沢 寛	防府北	航学群	
31F	野沢 隆一	千歳	第2航空団第203飛行隊	
32A	市来 道啓	板妻	第34普通科連隊	
32A	大塚 裕治	檜町	中央会計契約科第2契約班	
32A	大塚 和也	旭川	第2高射特科連隊第1中隊	
32A	小原 真二	退職	航空大学校 宮崎市赤江字飛江田学生寮	
32A	小田 益男	富士	特科教導隊	
32A	上山 聡	海田市	第46普通科連隊迫中隊	
32A	川崎 誠二	八尾	中方ヘリ隊	
32A	境 孝明	山口	第17普通科連隊本管中隊	
32A	更工 雅彦	退職	奈良県橿原市和田町32-4	
32A	神保 俊昭	退職	和歌山県東牟婁郡古座町中湊531	
32A	田口 芳郎	退職	三鷹市牟礼5-2-17-105	
32A	竹内 利治	八尾	中部方面航空隊	
32A	中村 裕亮	滝ヶ原	普通科教導連隊第2中隊	
32A	平田 雄嗣	えびの	第24普通科連隊本管中隊	
32A	福元 昌二	久留米	第4特科連隊第5大隊	
32A	福重 毅尚	富士	戦車教導連隊	
32A	山地 伸一	檜町	中央資料隊	
32N	河上 康博	大湊	大湊地方總監部 副官	
32N	後藤 幸英	退職		
32N	澤本 武朝			
32N	松尾 研志			
32F	植村 茂己	市ヶ谷	補給本部2部システム管理課	
32F	鈴木 憲	浜松	第2術科学校第1科	
32F	高橋 秀雄	防大	研究課	
32F	山口 直人	百里	航空救難団	
32F	渡部 誠	美保	第3輸送航空隊	
33A	池田 誠喜	練馬	第1後方支援連隊武器隊	
33A	大津 勝利	富士	特科教導隊	
33A	柿野 忠嗣	海田市	第13後方支援連隊3科	
33A	川崎 英幸	退職	東京都保谷市ひばりヶ丘3-4-3T&K(旧)??	
33A	近藤 哲也	東千歳	第7特科連隊	
33A	郡山 直樹	湯布院	第3特科群	
33A	椎葉 博正	退職	東京都荒川区??3-25-160イルクワーン 502	
33A	谷口 喜一郎	留萌	第26普通科連隊	
33A	富樫 勇一	滝ヶ原	普通科教導連隊	
33A	中塚 修一	東千歳	第11普通科連隊	
33A	半澤 新吾	退職		
33A	久永 智	退職	岡山県倉敷市大内1073	
33A	細野 容司	遠軽	第25普通科連隊	
33A	山本 真也	善通寺	第8施設群第319施設中隊	
33N	鵜澤 直樹	退職		
33N	関口 雄輝	檜町	東京業務隊付サイマルアカデミー研修	
33N	高橋 真一			
33N	西窪 純			
33N	町島 敏幸	那覇	第5航空隊	
33N	山本 裕一			
33N	渡辺 浩	佐世保	護衛艦「いわせ」	
33F	新崎 秀樹	小松	第6航空団303飛行隊	
33F	岡本 秀文	檜町	中央業務隊付 日本航空研修	
33F	田中 勝也	退職		
33F	荒木 俊一	那覇	南西防空管制群南西航空警戒管制隊	
33F	高草木 浩寿	三沢	3空団3飛行隊	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
33F	増田 友晴	築城	8空団飛行群	
33F	御厨 広之	浜松	教導高射隊第2教導隊	
34A	石黒 太美英	神町	第6飛行隊	
34A	篠原 康一	土浦	武器教導隊	
34A	田中 一要	防大	防大研究科	
34A	田丸 正勝	檜町	中央資料隊付	
34A	筒井 鋭達	都城	第43普通科連隊	
34A	能井 智治	上富良野	第304武器野整備中隊補給小隊長	
34A	松永 康則	防大	第121小隊指導教官	
34A	平林 理	真駒内	第11戦車大隊	
34A	永室 正一郎	退職	茅ヶ崎市松が丘	
34A	竹内 博忠	防大	研究科	
34N	富山 修	横須賀	掃海艦「やえやま」	
34N	丹羽 満良	鹿屋	第1航空隊	
34F	羽田 充伸	木更津	第1補給処	
34F	小笠原 卓人	奈良	幹部候補生学校	
34F	河田 成治也	新潟	航空救難団	
34F	田代 秀也	那覇	南西航空混成団南西航空警戒管制隊	
35A	安藤 和幸	霞目	東北方面航空隊	
35A	戒田 重雄	習志野	第1空挺団空挺教育隊	
35A	川嶋 和之	北宇都宮	第12飛行隊	
35A	木場 元大			
35A	坂本 雄一	旭川	第9普通科連隊	
35A	瀬戸口 淳	八戸	第5高射特科群	
35A	中村 健太郎	高田	第2普通科連隊	
35A	中本 尚明	市ヶ谷	第32普通科連隊	
35A	福本 博氏	山口	第17普通科連隊第1中隊	
35A	馬淵 貴史	福島	第11施設群329施設中	
35A	袖之原 公郎	目達原	第4飛行隊	
35N	加藤 寛和	横須賀	護衛艦「しらね」	
35N	中原 俊行	横須賀	護衛艦「はたかぜ」	
35N	三浦 則文	舞鶴	護衛艦「ちくま」	
35N	森泉 周	鹿屋	第211教育航空隊	
35F	中澤 武志	浜松	航空救難団	
35F	堀 修二郎	防府	教育集団付	
36A	井上 勝	久里浜	中央野外通信群	
36A	岩村 伝法	退職		
36A	榎窪 正和	青野原	第8高射特科群	
36A	大北 知史	駒門	第1戦車大隊	
36A	倉田 一	勝田	施設教導隊	
36A	中村 英昭	遠軽	第3普通科連隊	
36A	日高 邦登	北熊本	第8特科連隊	
36A	福島 浩二	美幌	第1特科群	
36A	藤岡 史生	真駒内	第18普通科連隊	
36A	前田 尚男	防大	防大研修生	
36A	村上 至	真駒内	北部方面輸送隊	
36N	鳥越 要	横須賀	護衛艦「あまぎり」	
36F	綿森 昭示	饗庭野	第4高射群	
37A	大山 剛	駒門	第1高射特科大隊	
37A	河合 寿士	目達原	西部方面武器隊	
37A	兎玉 洋	伊丹	第36普通科連隊	
37A	富原 大治	日本原	第13戦車大隊	
37A	平瀬 慎	古河	第1施設大隊	
37A	古田 和之	旭川	第2後方支援連隊	
37A	森安 宏徳	松本	第13普通科連隊	
37A	山下 豊	滝川	第10普通科連隊	
37A	吉田 文二	北恵庭	第72戦車連隊	
37N	石原 寿英			
37N	岩本 正行	横須賀	練習艦隊	
37N	木下 治信	横須賀	練習艦隊	
37N	鈴木 隆弘	横須賀	練習艦隊	
37N	高取 哲郎	横須賀	練習艦隊	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
37F	久重路 剛	芦屋	13教団 (教育集団付)	
37F	塚原 敏夫	知念	5高群	
37F	中居 景	芦屋	13教団	
37F	矢坂 勝良	芦屋	13教団	
38A	水野 亮二	北熊本	第8後方支援連隊	
38A	奇藤 浩	神町	第20普通科連隊	
38A	宮下 克聡	旭川	第2特科連隊	
38A	黒子 智彰	丘珠	北部方面航空隊	
38A	尼子 将之	勝田	施設教導隊	
38A	高岡 徳人	伊丹	第36普通科連隊	
38N	高橋 俊隆	江田島	海幹候	
38N	中村 格	江田島	海幹候	
38N	城戸 利彰	江田島	海幹候	
38N	佐藤 滝大	江田島	海幹候	
38N	平井 穰治	江田島	海幹候	
38F	向井 洋史	築城	第8航空団	

編集後記

合掌

新年、おめでとうございます。

OBの皆様には、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また日ごろから貴重な時間をさいてのご協力・ご支援並びにご指導いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、ここに防大少林寺拳法部第21号の発刊を迎え、平成6年度の輝かしい成果を報告することができ、非常な喜びとするところであります。これも諸先輩方のご協力及び39期生主将以下の賜物と感謝しております。

我々40期生は創部30周年の節目の政権を握ることになります。12名と少ない人数ではありますが、諸先輩方の築き上げられてきた伝統と防大少林寺拳法部員としての誇りを受け継ぎ、日々修行に励む次第であります。

今後とも現状に甘える事なく、防衛大学校少林寺拳法部の名をより知らしめるべくたゆまぬ努力を続けていきますので、OBの各位におかれましては、何かとご多忙中とは存じますが、変わらぬご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

最後に、本部誌発行にあたり、ご指導下さった部長、監督、顧問の方々をはじめ、投稿してくれた各学生に感謝して、編集後記と致します。

結手

平成6年度 OB係

